

オハイオ州フィンドレー大学奨学生レポート 8月

「はじめり」

はじめまして、今年度の奨学生の金田奈帆美(かねだなおみ)と申します。留学することが夢だった私に今回の機会を与えてくださったことに、感謝の気持ちでいっぱいです。渡米してから本日までの約三週間は、学ぶことが溢れていた三週間でした。このような日々が続くという喜びが今の私のエネルギーとなっています。一か月に一度のこのレポートでは、私の成長とこちらの魅力をお伝えしていきたいと思います。

今月のレポートでは、生活をするにあたって欠かせない衣食住の住に視点を置きたいと思います。

現在、私は大学敷地内にある student house に住んでいます。これは寮とは異なり、一つの家には何人かで共同生活をするシェアハウスのスタイルです。寮との大きな違いは同じ家に住む house mate と仲良くなることができる、キッチンがついているという点が挙げられます。寮に住んでいる生徒は、基本的にカフェテリアで食事をとるそうです。



私が住んでいる student house です。



house mate 達です。

また、私が住んでいる student house は、ほかの student house とは異なる「日本語プログラム」という特徴を持っています。フィンドレー大学には日本語学科があり、日本語を学んでいる学生がいます。彼らと日本人の学生と一緒に生活をするという目的が私の student house にはあります。今年はアメリカ人5人、日本人4人の計9人で住んでいます。お互いがお互い

の国・言葉・文化に興味を持っているため、話がはずむ、アメリカ人と英語で話す機会が多いといった恵まれた環境の student house だと思います。また最近、授業では学ばないであろう、友人同士で使う言葉を学べるということも、大きな魅力の一つだと感じる事が多くなりました。クラスの友人たちとのコミュニケーションを円滑に進める潤滑油となっています。

9人での生活は、とても楽しいです。週末の夜は映画鑑賞会の開催が恒例行事となり、お互いの時間が合うときには日本食を一緒に作ったりと、和気あいあいとした生活を送っています。しかし、9人という大人数での生活の難しさや言葉の壁に直面することもあります。それらを防ぐために、全員での house meeting が開かれ、共同生活をするにあたっての規則を決めました。その結果、キッチンの食器洗い機の使い方やキッチンペーパーの使い方、お風呂の順番などを決めました。いろいろな規則を決めていく中、アメリカ人に「これから一緒に生活する中で、不快に思ったことがあったらすぐに教えてね。」と言われたのが印象的でした。彼女は「不快なことを我慢させることによって、相手にも不快感が生まれ、housemate 全体の雰囲気が悪くなる」とも言っていました。個人差があるとは思いますが、相手に気を配りつつも、臆することなく自分の意見を伝える留学生生活を過ごしたいと強く思っています。